

病防第57号
平成30年8月9日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成30年度病害虫発生予察注意報第4号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

平成30年度病害虫発生予察注意報第4号

農作物名 トマト（ミニトマトを含む）
病害虫名 すすかび病

- 1 発生地域 高冷地（夏秋栽培地域）
- 2 発生時期 収穫期（8月以降）
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠（図1、図2）
 - （1） 高冷地の夏秋トマト栽培地域では6月から発病が確認されており、平年（7月）より早かった。
 - （2） 7月第4半旬に実施した巡回調査では、発病株率8.3%（平年3.4%）、発病度2.1（平年0.8）で平年より発生が多かった。
 - （3） 本病の病原菌の感染適温は26～28℃と高く、高温期の8月以降被害が拡大する。
 - （4） 福岡管区气象台が8月2日に発表した九州北部地方1か月予報でも8月中旬まで気温は平年（8月の平均気温：阿蘇乙姫 23.9℃、南小国 24.2℃）よりかなり高い状態が続く予想であり、本病に好適な条件が続き感染が急速に拡大する可能性がある。
- 5 防除対策
 - （1） 摘葉等による通風採光を図り、多湿にならないようにする。
 - （2） 肥料切れや着果負担による草勢低下は、発病を助長するので適切な肥培管理に努める。これから着果数が多くなると、肥料切れしやすいので注意する。
 - （3） 被害茎葉は伝染源となるので、早期に除去し、ほ場外で適正に処分する。
 - （4） 薬剤防除は初発時から開始すると効果が高く、多発してからでは難しいので、他の病害も含めた予防散布に重点を置く（研究成果情報No.681「夏秋作のトマトにおけるすすかび病の発生推移と防除」http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=11626&sub_id=1&flid=31668を参照）。ただし、夏季は薬害が発生しやすいため、農薬の散布は日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行う。
 - （5） 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う（表1参照）。
 - （6） 農薬は、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や総使用回数、希釈倍数等を遵守して安全使用に努める。なお、ミニトマトは、登録されている薬剤や対象病害等がトマトと異なるので注意する。

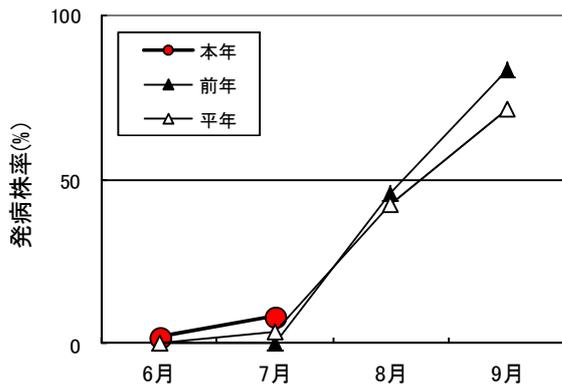


図1 すすかび病発病株率の推移

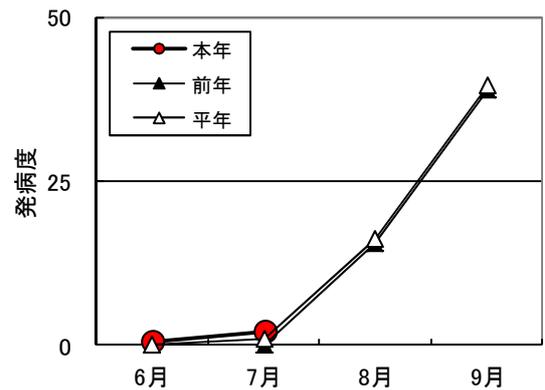


図2 すすかび病発病度の推移

表1 トマト・ミニトマトにおけるすすかび病防除剤の熊本県病害虫防除指針採用状況（平成30年8月6日現在）

農薬名	FRACコード	トマト	ミニトマト
トリフミン水和剤	3	○	○
スコア顆粒水和剤	3	○	
ベルコートフロアブル	M7	○	○
ダイアメリットDF	19, M7	○	
ダコニール1000	M5	○	
アミスターオプティフロアブル	11, M5	○	○
シグナムWDG	7, 11	○	○

なお、農薬を使用する際には最新の登録情報を参照すること。

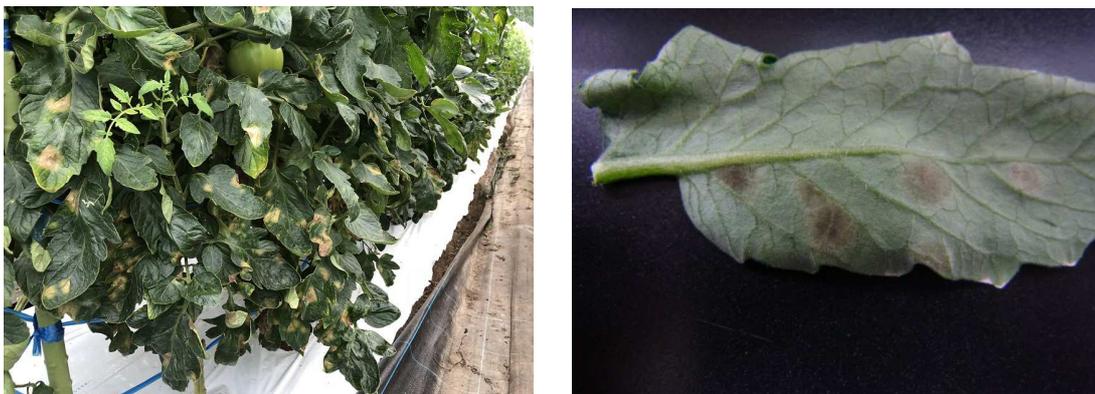


図3 すすかび病の病斑（左：葉表、右：葉裏）

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係)
 担当：春山、斉藤 TEL 096-248-6490